

## 会議録

会議の名称	令和5年度第2回加東市総合教育会議
開催日時	令和6年1月16日（火）午前9時30分から午前11時25分まで
開催場所	加東市役所 2階 201会議室
出席及び欠席委員の氏名 ＜出席委員＞ ・市長 岩根正 ・教育長 藤原哲史 ・教育委員 田中寿一、後藤純子、岸本恵一、別惣裕美子 ＜欠席委員＞ なし	
説明のため出席した者の職氏名 なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 ・副市長 小林勝成 ・こども未来部長 田中孝明 ・こども未来部小中一貫教育担当参事 神田英昭 ・生涯学習課長 岸本孝司 ・小中一貫教育推進室長 丸山真矢 ・発達サポートセンター所長 友藤由貴子 ・学校給食センター所長 大久保めぐみ ・生涯学習課主事 中西美裕 ・企画政策課長 岸本純子 ・企画政策課主査 仲井智紀 ・教育振興部長 鈴木敏久 ・こども未来部参事兼学校教育課長 井上聡 ・教育総務課長 西山英希 ・中央図書館長 田中美紀子 ・こども教育課長 下岡正裕 ・教育総務課副課長 堅田美佳 ・生涯学習課主査 福島奨平 ・まちづくり政策部長 三木秀仁 ・企画政策課副課長 村上計太 ・企画政策課主査 横山寛之	
1 議題 (1) 第2期加東市教育大綱における令和6年度の取組内容等について…資料1 (2) 子どもの個性を伸ばす教育の推進について…資料2 (3) その他  2 会議の結果及び経過 ⇒別紙「令和5年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和5年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過 / 発言内容
委員	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 市長あいさつ</b></p> <p><b>3 協議</b></p> <p>(1) 第2期加東市教育大綱における令和6年度の取組内容等について</p> <p>先日のニュースで、日本の国際的な学力が向上し、特に読解力において、かなり改善が図られたという内容が報道されていたが、教育の内容を十分に吟味して取り組んできた成果であると思う。加東市でも、学力検査の結果を分析して、教育内容を補完した上で次年度の学習計画を立てる手順が完成しており、その成果が表れていると認識している。</p> <p>『学力の二極化』が叫ばれているが、加東市が力を入れて取り組んでいるICT教育が、二極化を改善する大きな手立てになりえる。特に小中一貫校のようなある程度の学級規模の中での教育は、学習の個別化を図る上でICTは欠かせないツールであるため、今後もこれらの問題に対応できるICT教育を推進していく必要がある。</p> <p>小中一貫校の良さの一つは、多様性が確保できる点である。多様性のないところに進歩や発展はなく、この多様性を特に大事にしながら、人権的・教育的に行き届いた指導ができる体制をさらに充実することが大切である。小中一貫教育において、加東市は、他市町より進んでおり、今後も、小中一貫校の良さを活かした教育の更なる充実をお願いしたい。</p>
委員	<p>小中一貫校の開校準備が進むに従い、既存の各地区の小学校校舎の活用方法が気になっている。同様の問題を抱える自治体の中には、地域活性化の手段として活用する地域もあり、取組事例を参考にしたり、市民や民間のアイデアを募集するなどして、地域に根差した施設として活かすことができればと考える。</p> <p>発達サポートセンター「はぴあ」においては、今年度からナーサリールームが中止になり、民間の療育施設へ案内されているが、利用者は案内に沿って円滑に利用が出来ているのか。</p> <p>図書館サービスについて、今年度からは図書館利用が困難な方への宅配サービスが、来年度からはブックスタート事業が開始されるため、多くの方が図書館を利用しやすくなると期待している。現代の若い方々は、スマートフォン等の普及により、現物の本に触れて読書する機会が減っていると思うが、子どもと一緒に図書館に行く機会が増えれば、馴染みのある場所として、図書館に行く動機が得られるのではないかと。本は知識習得に役立つとともに、興味・関心事に気づききっかけとなりえるため、この事業は今後も続けていただきたい。年齢毎の本のガイドのようなものが一緒に配られれば、より分かりやすい案内になるのではないかと。</p>
市長	<p>旧校舎の活用について、我々も小学校の旧校舎を残したい思いがある。ところが、小中一貫校の整備費用を補填するための国の公債の活用において、統合する各学校と新校舎との面積的な条件が付されており、市が所有する限りはすべての校舎を残すことができない。このため、どの校舎を残すのかなどについて調整を進めている。市が公共施設として活用できないか、各地区で活用希望がないか、また、民間で校舎を活用する意向がないか、この3つを踏まえて検討を進めつつ、市の考えをしっかりとお伝えしていきたい。</p>

	<p>滝野地域については、社地域と同程度の生徒規模となるが、旧校舎は滝野南小学校と滝野東小学校の2つしかなく、社地域と同じ条件下であれば校舎を残すことは難しいため、現時点では、同じ制度の活用は難しいと考えている。</p>
事務局	<p>ナーサリールームの中止後の対応について、健康課からの紹介でご相談に来られた方に対しては、発達サポートセンター及び民間の療育施設での療育について説明しており、民間の療育を希望される方には、社会福祉課から施設毎の療育内容を案内している。現在のところ、特に問題は聞いていない。</p>
委員	<p>スクールサポートスタッフの全校配置により教職員の業務が軽減され、子どもと向き合う時間が増えたことで、1人も取りこぼさない教育の取組成果が表れている。外国籍の生徒についても、生活様式の違いや言葉の壁がある中、しっかりとサポートを受ける機会があり、いい方向に向かっている。</p> <p>また、ふるさと学習という点で、地域のことを地域で学ぶ姿勢は大切なことであると認識している。ふるさと学習『かとう学』副読本第2版の発行については、とても期待をしている。</p>
委員	<p>この度の能登半島地震において、中学生が一斉に集まって勉強する取組がなされているとニュースで見た。本市においても、コロナ禍ではリモートでの学びがうまく機能したと思われるが、仮に同規模の災害により通信網が途絶えた場合はどうなるのか。先生が出勤できないときはどうなるのかなど、教育現場における危機管理、被災時の準備・想定はされているのか。</p>
市長	<p>阪神淡路大震災や今回の能登半島地震のような状況では、正直に申し上げて、当面諦めるしかないと考えている。一方で、最近の通信インフラでは、遠隔サーバーの恩恵により、母体が被害を受けない可能性も高く、復旧が早まることも想定される。いずれにしても、被災時の早期復旧は努力したい。一方で、友達などに直接対面できることは子どもにとって価値のあるものであり、学校施設等の復旧も最大限努力したい。</p>
教育長	<p>今回の災害でも、里帰りした子どもが被災して亡くなるという事態があったが、一番大切なことは、災害時に自分の命を守る術を、子どもたちが普段の学校生活の訓練で身につけておくことである。また、学習面においては、被災時は相次いで余震が起こるなどの状況の中であるため、子どもも学習できる心境を整えるのは難しいのではないかと考えている。学校としても、子どもたちのその状況に合わせた形で学びの場を提供していきたいと考えているが、子ども自身も、自分で学習するにはどうしたらいいのか、を想定できるような、自分で学べる力を身に付けてほしいと思っている。</p>
委員	<p>(2) 子どもの個性を伸ばす教育の推進について</p> <p>かとう夢授業について、著名な講師の講演により子どもの夢を育める機会となっており、ひと昔前では考えられない、素晴らしい取組だと思う。子どもの知らない領域は多く、一つの項目に偏らずに、様々な分野の一流の講師をお招きすることで、子供が知る機会を増やすことにつなげていただきたい。</p> <p>チャレンジスクールについては、子どもにさせたいことと、子どもがしたいことのバランスを上手に取っている。参加者が少なくても子どもにさせたいことは続け、一方で子どもが夢中になれるものを作ることも大事である。取捨選択を行</p>

	<p>いながら、取組を続けていただきたい。</p> <p>最後に、子どもの人数が減ったことで、滝野南小学校と東条地域の少年団と一緒に野球の練習をしている実情があるように、スポーツ少年団の活動が親の送迎を前提としたものとなっている。一流を目指して上を目指して頑張りたい、夢を追いかけてほしい選手がいる一方で、その居場所をどう確保するかが今後の大きな課題になると思われるため、何か対策ができないかと考えている。</p>
委員	<p>かとう夢授業の図画工作授業の感想で、「もっと描きたい」や「楽しかった」と答えた児童の割合が多い一方で、チャレンジスクールの内容を見たら、絵画に関する教室が用意されていない。加東市文化連盟で絵や写真などを展示されている方がいるため、そのような方々に講師を依頼することで、チャレンジスクールに同様の内容を実装できないか。</p>
事務局	<p>加東市文化連盟の団体の方と調整しながら検討していきたい。</p>
委員	<p>かとう夢授業で貴重な体験を得ることができた子どもがいる一方で、いじめやヤングケアラー等の問題に苦しむ子どもも、この授業をきっかけに、何か変わることができたら、と思っている。</p> <p>東条学園では、授業の中で、東条地域の方々、企業の方々に協力いただく形での取組もされている。チャレンジスクールに地域の学習を取り入れていくために、市内で農業などをされている方に協力いただくことができればよりよいものができるのではないか。</p>
事務局	<p>児童生徒の中には、いろんな環境で生活をしている子どもがいるが、かとう夢授業で感じたものや得られたものを、教員も保護者とともにサポートしながら、次の教育に繋げていきたい。本授業は今年始めたばかりのものであり、来年度も継続して出来るように、学校側としても、カリキュラムの中でうまく学習に落とし込みをする仕組みを作りたい。</p>
事務局	<p>チャレンジスクールでは、鯉のぼり作りやもち麦うどん、ゴルフ体験など、地域に根ざした教室も実施している。今後も、地域の特性を踏まえて、教室の内容を検討していく。</p>
委員	<p>かとう夢授業のアンケート結果を踏まえると、成功体験や楽しみながら取り組むことが、子どもにとって大切なことだと感じた。一方で、今年度の取組は、基本的に一つの学校で1人の講師が話をされており、もったいない。リモートや録画等の手法により、より多くの子どもが貴重な話を聞く機会が得られるようにしてほしい。</p> <p>チャレンジスクールに関しては、ニュースポーツ体験の集まりが悪かったようだが、内容がわかりづらく興味を持つ子どもが少なかったためと思われる。単独での開催に拘らず、学校行事で紹介する機会をつくるなどにより、後の参加者の増加につながるのでは、と考える。また、これまでは無かった英語や国際交流関連の企画があれば、保護者の方が、自分の子どもを参加させたいと思うのではなか。加えて、送迎ができない家庭の子どものために送迎車を用意したり、人気で希望者全員が参加できない教室は、キャンセルが出た際に連絡対応したりなどの対応ができれば、なお良いかと思う。</p>
事務局	<p>かとう夢授業について、ケーブルテレビ等による放送等を検討していたが、講師が有名な方になるほど事務所の方からストップがかかり実現できなかった。今</p>

事務局	<p>後も、各公演を多くの方に観ていただける仕組みづくりに取り組む。</p> <p>チャレンジスクールの応募の少なかった教室について、講師の都合を考慮した開催時期が、学校行事と重なったこと等が原因だと考えているが、事業自体は有効だと考えて実施しているので、他の事業との連携なども検討したい。また、参加者のキャンセルが出た際の対応について、希望者への声掛けや、追加開催などを考えていきたい。</p>
市長	<p>物事に対する好き嫌いは別として、高校生ぐらいまでは、子供たちの能力に差はないと思っている。差が生まれるのは指導者で、指導者がどれだけ子どもを楽しませ、やろうという気にさせられるかが重要だと考えている。夢授業で行っていることは正にこのことで、講師自身が楽しんで取り組んでいる内容を子どもに共有し、子ども自身が興味をもって、才能を伸ばしてもらおうような取組である。一方で、チャレンジスクールは楽しむこと自体の底上げをする取組であり、そこに2つの違いがあると認識している。</p> <p>他に意見があったが、学力の二極化に危機感をもっている。学校内での学力の二極化に加え、地域間でも学力に差が出てきており、ここ加東市と阪神間とでも差が出てきていると認識している。理由として明確なデータはないものの、個別学習を進める上で重要なICTの活用状況が挙げられる。阪神間では早くからパソコンを導入し、授業の復習に動画を活用して、気になる箇所以外は倍速再生するなど、使い方が成熟している。加東市もICT機器の導入により取組を推進している段階であり、ICT技術の活用を成熟させていきたい。加えて、全国学力調査の結果をしっかりと分析して、課題に対応していくことも重要である。いずれにしても、まちづくりの根幹は教育だと思っている。ICT技術の活用や様々なツールを用いた分析により、しっかりと取り組んでいただきたい。</p>
教育長	<p>教育で一番大切なことは、子どもの生きる火種に火をつけることである。今の子どもは、心を揺さぶる体験、群れて遊んだ中でいろんな体験をして培う火種が不足している。これを自然学校やトライやるウィークなど、いろんな形で懸命に補おうとしているが足りていないため、かとう夢授業を実現できたことが有難く、子どものキャリア教育にも結びつけていきたい。</p> <p>ICTの分野については、みんな揃ってみんな同じ内容で学ぶという概念を取り払えるような、個別学習の推進という点で取組を進めていきたい。</p> <p>最後に、教師の指導力というのは大きなキーポイントである。かとう夢授業のような機会により単発的に夢を語ることも大事であるが、普段から先生方が、子どもに夢を語るができる環境が大事である。子どもに言葉をかけていくような教育に取り組みたい。</p> <p>(3)その他</p>
委員	<p>性教育について、どの程度行われているのか。能登半島地震の被災地に生理用品を支援することに関して、「それよりも水や食料を最優先すべきだ」、「男性にもそれに代わるものを支給しろ」といった意見を聞いて衝撃を受けた。私たちが子どもの頃の性教育は閉鎖的であったが、昔ながらの性教育と違う視点から、小学校低学年ぐらいからきちんと教えてもいいのではないかと。授業としては、担任や保健体育の先生が教えることになるかと思うが、授業以外でも、社中学校で行われた講演会のように、専門の先生や助産師の方など、女性の知識を持った方が、しっかりと子どもに話をする機会があるといいのではないかと。</p>

事務局	<p>性教育については、学習指導要領に基づき、小学校1年生から、保健体育のような特別活動で実施しており、子どもの発達に応じて学習を進めている。中学校3年生では性感染症エイズの防止の学習なども含まれるが、各学年で学習する中で、専門の講師にもお越しいただき、デートDVの防止研修なども行っている。</p>
委員	<p>小中一貫校の推進で従来よりも学校が広域的な枠組みとなり、スクールバスでの通学などが影響して、子ども同士と一緒に遊ぶ機会が作りにくくなっている。他地域では、子どもが集まって遊ぶ時間を意図的に作るような活動がされているとニュースで見たが、同様の取組ができれば、バス通学の児童の運動不足の解消などにも役立つのではないかと思うので、検討いただきたい。</p> <p><b>4 閉会</b></p>